



県立新庄病院の機能強化と 建て替えに向けた 外部検討委員会設置決定!

医療の格差は命の格差! 安心して暮らせる地域へ!

私は県議会において厚生環境常任委員長として新庄病院については機会あるごとに訴え続けて参りました。去る1月26日には県立新庄病院の機能強化と全面建て替えに向けて最上地域の関係者の皆さんとともに吉村知事に要望活動を行いました。知事からは、新庄病院の全面建て替えを前提とした外部有識者による検討委員会の設置が正式に発表されました。検討委員会が設置されれば、建て替えに向けてより具体的に進んでまいります。

これまで、25年度から26年度にかけて患者動向、医療ニーズ等を中心に基礎調査が行われておりますが、この調査結果を受けて新庄病院のあり方や将来に向けた方向性等が検討委員会により議論されます。

新庄病院の建て替えは新庄最上地域に暮らす市民にとって長年の悲願です。私にとっても父の代からの大きな公約でもありました。皆様とともに要望を続けてきたことが漸く動き出しました。

1月19日には、「最上地域の地域医療を考える市民の集い」が行われました。そこでは、かかりつけ医をもつことや新庄病院への適正な受診のあり方、新庄病院の機能強化と改築の要望が話題となりました。また、尾花沢市や大石田方面から新庄病院へ救急搬送されることが多いことも紹介され、新庄病院の機能強化と全面建て替えに対しては最上地域以外からも強い要望が示されました。

さて、私は新庄病院については、建物の建て替えは当然ですが、最も重要なことは病院の機能(中身)だと考えています。建物が新しくなっても病院の機能が充実しなければ、安心して新庄最上地域で暮らし続けることはできません。病院が建て替えられれば、建物を数十年間使っていくことになりません。だからこそ、新しい新庄病院にはどんな機能が求められるのか、機能強化するには何が必要なのかを明らかにしたうえで建て替えを進めることが大切です。救急医療体制の強化や産科小児科などを総合的に充実させなければなりません。

他にも例えば、新庄最上地域は県内でも高齢化率の高い地域であり、超高齢社会に対応する医療体制



新庄最上地域の関係者の皆さんと知事へ要望活動

の構築が急がれます。在宅医療、在宅介護を希望する方が相当数いるとの調査結果がありますが、新庄最上地域では医師不足、看護師不足から国の目指すような体制はなかなか進んでおりません。新庄病院には、高度な専門医療に加え、地域医療と関わる部門を新たに設け、地域医療のモデルケースを作り出していくことも必要だと考えます。

さらに、全国的に総合診療医の育成や確保が今後重要になってきます。新庄病院の機能強化の一つとしてこのようなことも訴えていかなければなりません。

新しい新庄病院の誕生に向け、市民の皆様をはじめ医師会、福祉関係者の方々の考えをお聞きし一緒に考え、それを新しい新庄病院に反映させるよう頑張っております。

ふるさと再生 さらに前進!

日頃より皆様にはご指導、ご意見を賜りありがとうございます。昨年は、金山町での育樹祭開催、東北中央道の秋田県境区間の事業化、新庄尾花沢道路の開通、さらに大手企業の新庄進出等地域経済にとって喜ばしいことがあった一方、米価下落や経済政策が地方経済に期待したほど波及しない現状、さらに人口減少により将来消滅する市町村が取り沙汰される等、都市と地方の格差についての話題が多かったように思います。国による地方創生という言葉が単なるキャッチフレーズにならないようしっかりと地域課題に目を向けて、引き続き、地元を最優先に職責を務めて参ります。

今回は、新庄最上地域に関する主な県政の動きをピックアップしてご報告いたします。ご覧頂きご指導、ご意見を頂ければ幸いです。

山形県議会議員 山科 朝則
厚生環境常任委員長



新春対談

「林産業による地域再生」

山科 朝則

協和木材株式会社 代表取締役 佐川 広興



木材を無駄なく使い 地域の中で循環させたい

山科 協和木材(株)は木材加工業界の中でも国産製材の最大手と伺っています。協和木材(株)のこれまでの歩みなどを教えてください。

佐川 私共は、昭和28年に素材生産業として創業いたしました。現在、福島県に2カ所の工場が24時間操業しております。年間原木消費量は約30万m³であり、従業員は220名を雇用しています。丸太をすべて自社で使い切るため、集成材製造に参入しました。B材とよばれる木材に付加価値をつけて販売することができるようになりました。

山科 佐川社長は、平成22年に行われた第49回全国農林水産祭の林産部門で「天皇杯」を受賞したと伺っています。大変名誉ある受賞とのことですが、社長のこれまで培われた経験等もお話いただけますか。

佐川 私共は、森林の所有者から立木を直接購入し、伐採、搬出、加工、流通まで一貫して行うことで安定的に地域材を供給しております。また、厳密な格付

平成26年11月8日(山形新聞)

「森林ノミックス」全国展開を提言

地域資源を活用した産業 吉村知事らが出席した全国展開の全国会議 11月7日、菅原町

美奈子知事は山形県が独自の取り組み「森林(モリ)ノミックス」の全国的な展開を念頭に、政府として積極的に支援する考えを示した。

吉村知事は「県内は72%が森林だが、戦後植林された木などが十分に活用されず、山が荒廃している」と現状を紹介し、「各都道府県の実情は違うが、林業を振興すれば新たな雇創出が期待され、農村が維持される」と述べた。

日本海側のインフラ整備については、吉村知事に続いて石井隆一(富山県知事)が「石破氏は吉村知事の提言、同趣旨の発言をした」と強調した。

東日本大震災を踏まえ、吉村知事は日本海側のインフラを整備し、太平洋側との格差を是正し、均衡ある国土発展を目指すべきだと持論も述べた。

山科 県では現在、森林資源を「森の恵み」「森のエネルギー」として活かしていく「森林(モリ)ノミックス」の取り組みを積極的に進めています。こうした「森林ノミックス」の取り組みにより、林業の振興や雇用の創出を図り、地域活性化に結びつけようとしています。協

けや品質管理、効率化を図ることで高品質、低コストに努めるとともに、ハウスメーカー、工務店、ホームセンター等の多様なニーズに応じた生産を行っております。植林から製材加工までを通し、持続可能な森林経営に関与し、木材を無駄なく使い地域の中で循環させたいとの思いでやっております。

林業の成長産業化を実現し、農山村を次世代に継承する

山科 山形県は県土面積の約7割が森林であり、この森林を活用して地域を再生していくことが必要だと考えています。林野庁では、森林資源を循環利用することで「林業の成長産業化」を実現し、伝統ある農山村を次世代に継承しようとしています。このような中で、森林資源を循環利用する集成材工場は、「林業の成長産業化」に大きく貢献するものと考えます。今後の森林林業はどのような方向を目指して進んでいくべきだとお考えですか。

佐川 国の政策として「林業を成長産業化」することは、林業に携わるものにとっても非常に心強いことです。

森林(モリ)ノミックスを進め、 豊富な森林資源を活用した 地域再生を

山科 県では現在、森林資源を「森の恵み」「森のエネルギー」として活かしていく「森林(モリ)ノミックス」の取り組みを積極的に進めています。こうした「森林ノミックス」の取り組みにより、林業の振興や雇用の創出を図り、地域活性化に結びつけようとしています。協



今井 敏林野庁長官と面談・要望

和木材(株)の立地は、大きな「森林ノミックス」だと思えますが、社長は、今後、地域活性化の決め手は何だと考えますか。

佐川 人口減少が著しい地域では、山村から人がいなくなり林業は成り立たなくなります。そうしないためには、加工・販売をトータルに行える拠点を作らなければなりません。また、森林資源の循環利用により林家の所得向上を図るとともに森林を維持継続するための再造林についてもあらゆる手段で取り組んでいくべきです。私共の集成材工場による新たな雇用創出だけでなく、広い意味で森林整備に関わる雇用を生み出すことができると考えています。今後、中山間地域の活性化を図るうえで林業の果たす役割は重要なものになると考えています。



沖 修司林野庁次長と面談・要望